

生誕 120 周年記念特別展

「映画俳優志村喬～延岡での足跡と俳優人生～」開催要項（案）

1. 名称（仮称）生誕 120 周年記念特別展
「映画俳優志村喬～延岡での足跡と俳優人生～」
2. 会期令和 7 年 5 月 3 日(土・祝)～6 月 15 日(日)44 日間（38 日開館）
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日の火曜日）6 日間
3. 主催延岡城・内藤記念博物館、国立映画アーカイブ（予定）
4. 趣旨

『七人の侍』の知恵深き戦術家、生命の最後の火を燃やす『生きる』の役人、『ゴジラ』の山根博士など、400 本以上の映画作品に出演した世界的名優・志村喬。2025 年に生誕 120 年を迎える志村喬は、宮崎県立延岡中学校（現在の宮崎県立延岡高等学校）で青春時代を過ごしています。

延岡城内藤記念博物館では、生誕 120 周年を記念して、2015 年に東京国立近代美術館フィルムセンターにて開催された「生誕 110 年映画俳優志村喬」の展示構成を踏襲しつつ、志村が夕刊デイリー新聞紙上で連載した「私の人生劇場」の記事などをもとにした特別展を開催いたします。

名監督・黒澤明の全 30 作品のうち、21 作品に出演し、世界の映画ファンにその名演を印象づけてきた志村喬の人格形成に、延岡という土地が、どのような影響を与えたのか。

今回の特別展では、国立映画アーカイブが所蔵する、膨大な「志村喬コレクション」を公開すると共に、志村が過ごした当時の延岡の様子なども紹介し、日本が誇る名優・志村喬の足跡、そして日本映画の魅力を発信する機会とします。

5. 会場；延岡城・内藤記念博物館企画展示室
 6. 観覧料；一般 500 円高大生 300 円中学生以下無料
- ※入館料は無料（平常展示室・体験展示室などの見学などの施設利用も可）

7. 関連事業

（1）開会式

日時：令和 7 年 5 月 3 日(土・祝)9:00～

会場：延岡城・内藤記念博物館エントランスホール

出席者：市長・議長

（2）協賛企画：演劇「志村喬の生涯（仮称）」

日時：令和 7 年 6 月 7 日（土）、6 月 8 日（日）

会場：野口遵記念館

脚本：港岳彦氏

74年宮崎県生まれ。日本映画学校7期生 1995年卒。24年4月より九州大学で教授を務める。

【主な脚本作品】

- ・『あい、荒野 前篇・後編』(17) ・『宮本から君へ』(19) ・『アナログ』(23)
- ・『正欲』(23) ・『仮装儀礼』(23) ・『ぼくが生きてる、ふたつの世界』(24)

演出：段正一郎

1956年生まれ。宮崎県立高校国語科教諭。2017年延岡高校校長を退職。2000年から宮崎日日新聞劇評執筆。退職後は、イカ釣り漁師の傍らFM宮崎「今夜もバニー先輩」コメンテーター、ときどき教育講演、高校演劇コンクール審査員など。脚本家・港岳彦の延岡工業高校時代の恩師でもある。

「光を託された男、志村喬」(仮題) 2024/10/12

【概要】

黒澤明は、志村喬が演じる人間に「人間の光」を託した。「酔いどれ天使」の、口は悪いが決して人を見捨てない酒浸りの医師に、人間界の悲惨を描く「羅生門」の末尾に打ち捨てられた赤ん坊を拾い上げ、「六人育てるのも七人育てるのも同じ苦勞だ」と去っていく貧者に、希望を託した。

卑怯で浅はかで人間の弱さを凝縮したような蛭田弁護士を描く「醜聞」でさえ、彼の最後の自己犠牲によって無辜の者が救われ、闇夜でしかないこの世に「星が生まれる」様を描く寓話とした。

「生きものの記録」では、三船敏郎の原子爆弾に対するオブゼクションを唯一理解する人間として存在させ、狂気の三船の傍らにひっそりとたたずませた。

世界映画史に残る「七人の侍」においては、我の強い侍や百姓たちを束ねて戦闘の指揮をとり、戦に勝っても「勝ったのは我々ではない、百姓だ」という“ことわり”を説く高潔な男として存在した。「生きる」ではその存在のすべてが黒澤の人間全般に対する信頼と希望そのものだった。

土佐藩士の血を引く無骨で滋味深い風貌、柔らかだが腹の据わった物腰、丁寧で無駄のない所作・仕草、えも言われぬ風情をかもす佇まい。志村喬は、世界映画史に名を残す黒澤明の映画に必要不可欠な存在だった。延岡が、志村喬の風貌のほんの一部を形作ったかもしれないということに、少しの誇りを抱いても良い気がする。

【ストーリー】

本作品は、「延岡の劇場で志村喬役を演じる」という難儀な仕事を与えられた俳優が、志村喬とは何者だったのか、という旅に出るストーリーである。延岡で過ごした朴訥な少年期から、関西で左翼演劇に明け暮れた青年期、東京に居を移しての政子夫人との結婚生活、そして巨匠・黒澤明との仕事に没入する壮年期に至るまでを、「志村喬を演じることになった俳優」である彼の目線で網羅しつつ、まぼろしの志村喬と時に対話し、時に叱咤され、時に教えられながら、「演じる」とは何か、「託される」とは何か、そして「人間の光」とは何かを学んでゆく構成を取る。

(3) 特別映画上映

日時：調整中

上映候補作品

『生きる』『七人の侍』『ゴジラ』『男ありて』『鴛鴦歌合戦』

会場：延岡シネマ

(4) その他

ギャラリートーク 国立フィルムアーカイブ 主任研究員 岡田秀則氏

東京大学教養学部卒業。国立映画アーカイブ主任研究員。映画のフィルム／関連マテリアルの収集・保存や、上映企画の運営などに携わり、映画展覧会のキュレーションも担当。国内外の映画史を踏まえたさまざまな論考を発表している

講演会 脚本家 港岳彦氏（延岡市出身）



ポスター案（写真は仮です）